

特別寄稿

北海道庁は新型コロナウイルス感染症に対応するため、いち早く3度目のワクチン接種をするよう呼びかけていますが、今回の大規模な感染症が全人類の生活を脅かしたといことは否定できません。今こそ、各国の連携と協力が必要です。台湾と日本も例外ではなく、東日本大震災発生時に台湾が日本へ200億円を寄付したこと、台湾で新型コロナウイルスワクチンの供給が不足した際、日本が6度にわたり台湾へ420万回分のワクチンを無償で提供し、台湾が困難を乗り越えらるよう助けてくれたこと、台湾政府が200万枚のマスク、台湾企業も124万枚のマスクを日本へ寄贈し、その内、それ

台湾のWHO参加を

防疫システムにより、感染症のコントロールに成功したことで世界各国から称賛されました。ブルームバーグ社2022年1月「COVIDレジリエンス(耐性)ランキング」で、ワクチン接種率、越境ウイルス管理、コントロール、医療品質等指標の総合評価で、台湾は



それぞれ5万枚と7万枚のマスクが北海道へ届いたように、相互に協力と援助をしています。台湾の防疫経験は全世界の防疫モデルとなりました。新型コロナウイルス感染症流行爆発後、台湾は中央感染症指揮センターと国民全体の協力の元、台湾の医療衛生分野の実力及びAI

粘信士・台北駐日経済文化代表処札幌分処長

世界第8位となり、更に多くの国々が台湾の世界保健機関(WHO)参加の必要性を直視し始めました。台湾もまた、世界の防疫体制に貢献する力があると行動で証明しているほか、各国の政治家や感染症対策専門家と2国間、または多国間で言うオンライン会議を通じて防疫経験を共有し、共に国際防疫動態を強化しています。

新型コロナウイルス(COVID-19)は世界に深刻な影響をもたらしました。特に台湾はアジア太平洋のかなめとなる場所に位置し、各国との往来も密接です。WHOは速やかに台湾の参加を受け入れ、世界の公衆衛生と防疫に潜在的な裂け目を生じさせないべきです。WHOは今なお台湾の疾病管制署「国際保健規則(IHR)」窓口の情報をIHRイントラネット(EIS)に追加しているため、台湾は各国と即時に感染症についての重要な情報交流をすることができません。台湾が加入申請している技術性会議も全ての参加が可能なわけではないため、台湾が現在のニーズを満たすには程遠く、国際協力にも不利な状況です。

各国が力を合わせ協力し、感染症に対抗するためには一刻の猶予もありません。疾病に国境はないのです。台湾が相互に支えあっていること、日本の参議院と道内4議会において、全会一致で台湾のWHO参加を支持する意見書が可決されたことに感謝し、台湾がオブザーバーとして世界保健総会(WHA)へ加入し、世界衛生ネットワーク参加と積極的な貢献を実現するため、再度日本と世界各国に台湾への温かいご支持を呼びかけたいと思います。(ねん・しんし) 台北駐日経済文化代表処札幌分処長